

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：16201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07022

研究課題名(和文) 東大寺領伊賀国黒田荘の景観・その歴史的変遷の復元研究

研究課題名(英文) Restoration study of the landscape of Todaiji territory Kuroda-no-shou in Iga Province and its historical change

研究代表者

守田 逸人(Morita, Hayato)

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号：10434250

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：多くの古代・中世史料を残し、広大な領域を持った伊賀国黒田荘故地(現三重県名張市一帯)の歴史過程に関する本研究の活動実績は、フィールドに関わる新たな中世史料の発掘と調査、荘内の重要な拠点となった「竜口」「上三谷」地区の現況(集落・耕地・用水路・ため池・寺社など)確認と記録、及び地籍図による明治期段階の確認、「竜口」地区現地における区有文書(近世・近代史料)の発見、中世段階での当該地域の歴史的位罫に関する実証論文の発表、等を実現した。一方、当初課題としてあげていた現地景観の歴史過程の復元研究に関しては、新たな区有文書の発見などのため、調査結果をトータルに分析してまとめる段階に至らなかった。

研究成果の概要(英文)：Activity record of this research on historical process of Iga Province Kuroda-no-sho area (present Mie prefecture Nabari city area) with vast area is that discovering and investigating new medieval historical materials related to the field, confirmation and recording of current conditions in the "Ryuguchi" and districts -village, arable land, irrigation canal, reservoir, temple shrine etc.- which became important bases, and confirmation of the Meiji era stage by "Chisekizu, discovery of district documents (modern documents) in the area of "Ryuguchi" district, publication of an empirical paper on the historical position of this region in the Middle Ages. On the other hand, in order to discover new documents, we did not reach the stage where we could analyze the results of the survey and summarize them.

研究分野：日本中世史

キーワード：荘園 景観 地域社会 都鄙関係 社会編成 土地制度

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦後の圃場整備事業や、開発による著しい環境の変化、さらに最近では人口減少や過疎化、世代交代に伴う地域情報の断絶など、近年の社会環境の変化は日本列島の歴史上かつてない激変期を迎えた。地域の歴史過程を記録し、跡づけていくことは、私たちの社会の成り立ち方を証明し、これまでの人間の努力を正当に評価する大切な作業である。

(2) 地域社会の歴史過程をめぐる景観復元研究については、近年 GPS 装置をデジタル画像上で重ね合わせ、3D システムを利用したデジタル画像に記録し、関連諸資料と突き合わせて水田開発の歴史的段階や、村落景観の歴史的変遷を跡づける方法論が構築されている。(科学研究費基盤(A)「荘園絵図の史料学とデジタル画像解析の発展的研究」(研究代表者林謙教授 東京大学史料編纂所、2004～07年度)など)。

また、近年歴史地理情報のデータベース集約化や GIS 機器の充実、荘園絵図など画像史料の解析能力の革新、荘園絵図史料論の深化などの方法論の深化に伴い、従来とは比較にならないほどの効率と精度で景観復元研究が可能となっている。

(3) 本研究課題のフィールドである伊賀国黒田荘故地(三重県名張市)は、奈良時代～戦国時代の長期にわたり南都の東大寺領荘園として存在し、現在に至るまで東大寺を中心に大量の関係史料も残されてきたため、荘園史などの分野で多くの研究が出されてきた。しかしながら、現在に至る景観の歴史過程を詳細に跡づけることが可能な日本を代表する荘園故地であるにもかかわらず、その周辺域を含めた地域構造や景観、その現代に至る歴史過程に関する研究はほとんど行われておらず、まさに地域環境が激変しつつある現在、急務な研究となっている。

2. 研究の目的

本研究は、古代～中世に形作られていく荘園景観全体がどのような歴史過程をたどり現在に至るのか、現代に至るまで多くの関係史料を残した伊賀国黒田荘故地を素材として進めていく。

具体的には、関係史料を博捜しつつ分析を加えて、古代・中世段階のこの地域のあり方や歴史的位相についての検討を行い、現代に至るまでの景観についてできるだけ詳細に跡づけることを目標とした。

景観復元にあたっては、近世史料や明治期の地籍図(公図)、土地改良計画図(戦後の圃場整備事業に伴う計画図)などの近現代の関係史料や、GISなどの機器を駆使し、これまでの景観復元研究の手法をさらに進化させて着手することで、これまでにない高精度な形で地域社会の歴史過程を明らかにしていくことを目指してきた。

景観復元にあたっては、地域の山林景観の変遷過程も重視した。黒田荘故地は奈良時代

から鎌倉時代まで東大寺・興福寺などの造営・修理のための巨大材木が搬出された地でもある。そのため、乱伐による山林破壊やそれを原因とする洪水、そしてそこからの山林再生を繰り返してきた。また、巨材搬出が行われる時期には都市との交通が活発になって技術者や労働者が大量に集結し、逆に山が「禿山」化してしまうとこうした人々も姿を消した。

すなわち、本フィールドの歴史過程を明らかにすることは、都市部に資材を搬出し続けてきた古代・中世以来の人々が山林資源とどのように向き合ってきたのか、また産業要地と都市との関係について、その長期にわたる歴史過程を明らかにするという点においても、重要な意義がある。

3. 研究の方法

(1) 新出史料や研究の進展により、都市部を資材等の面で支えた中世黒田荘の具体的なあり方を再評価する段階に来ている。そのため、中世伊賀国黒田荘における地域社会の構造と都市部との関係、あるいは周辺主要地域との地域間の関係や、社会編成に関する検討を行い、中世段階でのこの地域のあり方について明確にしていくことが重要となる。この作業を行いながら、その社会構造や景観の歴史過程について分析を加えていく手順をとることとした。

(2) 中世から現在に至る景観の変遷については、現在の景観を正確に記録しながら分析を進める手順をとることとした。

具体的には、現地踏査などの方法から、まずは現況について、耕地のあり方や河川・水路・池といった水掛かりや、寺院・神社、あるいは城郭・居館跡などの遺跡状況を正確に把握し記録していく。つぎに、明治期の地籍図を用いて近世～明治期の景観復元を行っていく。さらに近世初期の検地帳(太閤検地)や絵図類の分析、中世の検注帳や関係史料を出来るだけ発掘し、それらとあわせながら中世の景観の具体像を復元していくことを目指した。

以上のように、本研究では、現況を正確に記録した上で、そこから時間を遡りながら各段階の史料に新しく出現するものと、それ以前から存続するものを判別して前後の変化を確認し、中世の景観までを復元していくことを視野に作業を行うこととした。

一方、現在東大寺には黒田荘を描いた中世の荘園絵図も残されており、こうした絵図史料の解析をも行うことで、景観の立体的復元を試みることにした。

なお、2年間という限定された期間であることをふまえ、現地調査に関してはポイントを絞った活動が望ましいと判断した。

(3) 史料調査は、概して研究機関などの中世史料の調査と、現地での近世以降の史料調査とからなる。

研究機関での史料調査 かつて東大寺領に

属した中世のこの地域のあり方を明らかにするためには、東大寺関係文書の収集が不可欠となる。近年『三重県史』などの充実した自治体史が刊行されており、また現在、東大寺に残されている関係史料についてはすでに把握できているが、東大寺から散逸した関係史料の発掘が今後の重要な課題となっている。

いわゆる東大寺文書は、主に明治期以降、大量の文書が全国各地に散逸しており、東京大学史料編纂所をはじめとする史料の複製本（影写本）や、史料情報を蓄積する研究機関にて、散逸した東大寺文書の情報を集め、史料を収集していく必要がある。

さしあたり博物館や研究機関の所蔵に帰している史料は収集しやすいため、こうしたところから流出文書を収集していくことにした。

現地で収集する史資料 現地の法務局に保存される明治期作成の地籍図（公図）は、明治期のこの地域のあり方を明らかにするためには必須の史料である。また現地の寺院、旧名主・庄屋などには近世の検地帳などが残されている場合が多く、適宜悉皆的な史料調査を目標とした。

4. 研究成果

(1) **中世黒田荘に関する研究** 12～13世紀にかけて南都に巨材を搬出し続けたこの地域の具体的なあり方について、研究報告を行い（「歴史学研究会」大会中世史部会報告）論文にまとめた（『歴史学研究』950）。

荘園制成立期には南都・京都での大寺社造営ブームが同時並行的に展開しており、本研究でフィールドとした伊賀国では巨材搬出事業が大規模に展開し、巨材の確保をめぐる東大寺・興福寺など荘園領主層や、地域の在地領主層たちの競合が激化したこと、こうした動きのなかで中世的な地域社会の構造が編成されていったことを論じた。

この研究により、広域にわたる黒田荘故地のなかでも、とくに「竜口」・「上三谷」地区の重要性が浮き彫りとなり、この地域の現代までの歴史過程を段階的に明らかにしていくという課題を具体的に展開していくうえでの重要な方向付けとなった。

(2) **現地踏査** おおよそ平安時代以降に南都巨大寺院の造営・修理材料の搬出地となった「竜口」・「上三谷」を集中的に調査し、地域の集落・耕地・ため池・用水・寺社・祠分布などの現況をGIS上に記録し、現況の水田経営や信仰・祭祀等のあり方など地域慣行について、周辺住民の方々から聞き取り調査を実施した。さらに一部明治期のあり方についても確認、GIS上に記録した。これらのデータは、今後研究を展開させていく上での最も基層的なデータとなる。

また、中世の黒田荘を描いた荘園絵図（「黒田荘・長瀬荘塚絵図写」東大寺文書1-26-1、東大寺図書館所蔵文書）の分析を行い、絵図

が黒田荘のどの部分を描いたものなのか検討を加えてきた。この点については、横内裕人氏による先行研究があるが（横内裕人「黒田荘と境絵図 私領から荘園へ」『日本中世の仏教と東アジア』所収）現況と矛盾する点があり、再検討の余地が残されている。これらの点については、引き続き現地調査等を行い、論文等の手段で発表していく予定である。

なお、本研究では、対象フィールドのうち、「竜口」・「上三谷」地区に絞って集中的に現地調査を進めたが、後述するように「竜口」地区における区有文書の発見などのため、2年間にわたる「研究活動スタート支援」実施期間に行った調査結果をトータルに分析してまとめる段階に至らなかった。

(3) **研究機関での史料調査** 本研究の基礎的な題材となる東大寺文書について、明治期以降に東大寺外に流出した史料の追跡調査を行った。おもな調査対象機関は、国立歴史民俗博物館・京都国立博物館・東京大学史料編纂所・宮内庁書陵部・早稲田大学中央図書館・香川大学附属図書館である。これらの機関から所在不明となっていた東大寺文書（中世文書）を再発見した。

一方、明治～昭和初期にかけて東京大学史料編纂所にて作成された東大寺文書の複製史料（影写本）と、現在東大寺に所蔵される文書群の比較検討を行い、東大寺文書の流出のあり方について検討した結果、その流出のあり方には明治期・大正期の各時期によって特徴が見られることを突き止めた。この情報は、今後も流出して現在失われてしまった文書を再発掘するにあたって有力な情報となるだろう。

これらの点については、本研究に生かすだけでなく、論文などの形でできるだけ速やかに発表することで、さまざまな研究分野の進展に貢献したい。

現地での史料調査 現地の法務局にて、明治期作成の地籍図（公図）の調査・撮影を行った。

また、前述の「竜口」地区にて多くの区有文書（近世・近代史料）を発見した。区有文書の多くは名寄帳などの土地帳簿類や、近世期にこの地域で起こった山林境界相論に関わる絵図・文書類などで、まさにこの地区の景観の歴史過程を示す重要な史料群であり、その点数もかなりの数に上った。そのため、本研究期間内にすべて調査・撮影することができなかった。今後、継続的に調査・撮影を行う必要がある。

区有文書等の現地に残された史料については、世代交代が進むこの地域でとくに散逸が危惧される。こうした現地に残された史料の確認・調査・記録は今後の急務となる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1件)

守田逸人、中世成立期の社会編成と富の生成・分配の構造、『歴史学研究』950、2016年、49～60頁、査読有

〔学会発表〕(計 1件)

守田逸人、中世成立期の社会編成と富の生成・分配の構造、歴史学研究会大会中世史部会報告、2016年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守田 逸人 (MORITA, Hayato)
香川大学・教育学部・准教授
研究者番号：10434250

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

井上聡 (INOUE, Satoshi)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20302656